

# なでしこリーグ全体の底上げと女子サッカーの普及活動に注力

一般社団法人日本女子サッカーリーグ専務理事 田口 禎則氏

本誌 サッカー日本女子代表、なでしこジャパンが二〇一一年の女子ワールドカップで優勝、空前の女子サッカーブームになっていますね。

田口 日本サッカー協会は女子サッカーに特化した、なでしこvisionを二〇〇七年に発表し、二〇一五年までに女子プレーヤーを二〇万人にする、才能の発掘と育成のシステムの強化、二〇一五年女子ワールドカップでの優勝を三天目標に掲げ、二〇〇八年の北京オリンピックでは四位となっていました。また、二〇一一年大会で優勝するとは驚きでした。

このなでしこジャパンの活躍は日本女子サッカーリーグ、なでしこリーグにも好影響を及ぼし、二〇一一年シーズン後半は観客が一人を超え、試合も続出しました。また、スポンサー契約についてもワールドカップ後、三井住友カードとトヨタ自動車がおフィシャルスポンサーに決定したほか数社との交渉も行っています。ただ、今後もなでしこリーグを継続して応援してもらうためにはリーグ全体の底上げが必要で、選手の資質やプレーの質を上げていくとともに各チームの競技力の差を縮め

ていかなければならないと考えています。

## 二〇一二年チャレンジリーグは全国リーグに

本誌 日本女子サッカーリーグもなでしこリーグの愛称で定着してきましたね。

田口 日本サッカー協会では女子サッカーの発展に向け、二〇〇四年に日本女子代表の愛称を募集、なでしこジャパンに決定しました。このため、日本女子サッカーリーグも同途中からそれまでの愛称であるL・リーグとなでしこリーグを併用し、二〇〇六年からなでしこリーグのみを愛称に使用していましたが、日本女子サッカーリーグが発展していかなければ、なでしこジャパンのさらなる飛躍はないと改革を行い、二〇一〇年には、なでしこリーグと呼ぶことができる一〇チームと、二部に相当する東西に分かれたチャレンジリーグに再編しました。

本誌 二〇一一年は東日本大震災の影響が大きかったですね。

田口 東日本大震災による東京電力福島第一原発事故の影響で東電女子サッカー部・マリーゼが休部した

ため、同部を除く浦和レッドダイヤモンズ・レディース（埼玉県さいたま市）、ASエルフェン狭山FC（埼玉県狭山市）、ジェフユナイテッド市原・千葉レディース（千葉県千葉市・市原市）、日テレ・ベレーザ（東京都稲城市）、アルビレックス新潟レディース（新潟県新潟市・北蒲原郡聖籠町）、伊賀フットボールクラブくノ一（三重県伊賀市）、INAC神戸レオネッサ（兵庫県神戸市）、岡山湯郷Belle（岡山県美作市）、福岡J・アンクラス（福岡県春日市）の九チームでリーグ戦を行い、二〇〇七年に始まった、なでしこリーグカップ戦も中止しました。

本誌 二〇一二年はチャレンジリーグが全国リーグになります。

田口 現在、東西各六チームに分かれているチャレンジリーグを二〇一二年シーズンから一二チームによる全国リーグにし、二回戦総当たりになります。もともと全国リーグが前提だったので、交通費の負担が大きいなどの理由で東西に分けていました。サッカーくじの収益による助成金の増額が見込まれることや加盟チームなどから全国リーグではないとスポンサーが得にくいという意

